



老烟集



卷拾

辰



5
曾
1
56
9

林三又

无
但
茶
法
卷
一
拾

目
录

- 一 大坂友貞法
- 一 了 淨 名
- 一 大久保の切名
- 一 由井 智 心
- 一 馬士山の松
- 一 頼朝の玉子
- 一 専 光 之 花
- 一 阿 蘇 宗
- 一 弟 倉 之 曾
- 一 牧 野 名 之
- 一 萩 堂
- 一 義朝十の孫
- 一 信 隆 切 法
- 一 信 隆 切 法

茶 法 卷 一 拾

書損悪筆不讀

一般中より上并大取後仔細明辨を同及し〜返書
ありはる抄め〜由書書の中より諸代り〜花
り入様ひ〜けあはるゝ大取後より心ひ〜
通る〜子落〜はれ〜の箱の〜し〜し〜
皆と明辨を思召ひ〜あり〜之様〜由書所
の書は〜な〜て〜な〜由書美なる也〜是亦乃
事あり〜志度せん〜〜〜後の為あり〜

に引かるる一々大蛇との言のこゝろ一々一々
あつたつと一々一々大蛇との言のこゝろ一々一々の
王様^七の言のこゝろ一々一々大蛇との言のこゝろ一々一々の
あつたつと一々一々一々一々一々一々の
こゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
盗むらへ上様の言のこゝろ一々一々の
よの言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
鶴はあつたつと一々一々の言のこゝろ一々一々の
我々の言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
人の言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の

よの言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
あつたつと一々一々の言のこゝろ一々一々の

下 獲官

一 北後國の獲官大言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
法子梅清天皇の言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
あつたつと一々一々の言のこゝろ一々一々の
小舟梅清天皇の言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
りる言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の
る言のこゝろ一々一々の言のこゝろ一々一々の

玉び〜時を津中史母の續る所獲津媛
と成せ玉び〜は古津の少孫惟人令り
初〜〜多成日〜正是成天皇の元
祖〜〜今此惟典にあり〜七十九代
連綿〜〜之も後天皇の御宇に玉郡
余夕傾〜初と清〜月裏遠宮様と侍あま
つ〜時の天皇有惟多高孫從之位に位より目
〜〜事〜〜天皇の治〜西田位惟種
皇孫世成〜世緒のよろい〜
あ〜〜ほら〜世成乳と〜〜

自られらる〜多郡〜山奥の身成〜
君〜成弟のま〜中成清正朝臣と
あ〜〜明〜し〜不外成〜其家成
〜〜あ〜〜は〜
あ〜あ〜は代毎に〜の物成〜
〜〜あ〜あ〜若祖西田位友隆の御孫
那〜あ〜〜る色む〜あ〜あ〜田意連の物
〜〜叙位〜〜は〜後何〜
〜〜あ〜あ〜人〜
典名孫あ〜〜に強〜〜

河~~~~~
 川候候も~~~~~
 有るもの梅つの家あり~~~~~
 事なり思ふれ~~~~~
 典出~~~~~
 叙爵~~~~~
 叙爵~~~~~

了 歸 心

後列葉種 川上二同本杉尾村より出二十茶

里流且り一下の小川とも落合一山邊あり
 五倍川一上二七里川上二に梅尾一村あり
 主村一あり二氏あり二杉尾一村あり二氏あり二梅尾一村あり
 ねり一け二し二り一あり二は二あり一あり二生一也二なり
 一一代二一二氏一あり二梅尾一村あり二東福寺一あり二山一あり
 國師一あり二梅尾一村あり二山一あり二梅尾一村あり
 川一あり二梅尾一村あり二山一あり二梅尾一村あり
 生一候二端一あり二梅尾一村あり二山一あり二梅尾一村あり
 信一あり二梅尾一村あり二山一あり二梅尾一村あり
 梅尾一村あり二山一あり二梅尾一村あり二山一あり二梅尾一村あり

既石に申付し事は振付り申ひ山崎川東の石
 安徳川西の石に申ひ山崎の石ありて人々
 益石と申すも先も稀し其料川には山崎
 の石ありてあり安徳川に流るる石ありてあり
 し事矣の事なり

米倉の事

或田保吉の内の米倉は山中よりよき後
 母後もしく或年中より流絶せり投成後
 亦是り耐る真成ありて流絶せり

の倉の流るる事と致しける其成のむ倉に
 して流るる事と信ふすむる事ありて
 流絶せり其成のむ倉に流るる事あり
 たり或成のむ倉に流るる事ありて
 或人の言に流絶の初は其成のむ倉に
 是を流るる事と信ふすむる事ありて
 是の言に流るる事と信ふすむる事あり
 たり

大久保印者

味方々原通に渡邊は中
川に昔さうさう川
是とさうさう川にけ
川通に破り骨

牧野の名云

牧野城の中
はな路

町方
い
ま
よ
な
ま
ば

由井一山名

由井一山名一記

女秋堂

長つ玉秋堂とてあはれなき事なりしを尋らるるこゝの前に
なる四節の親を堂ありしに堂の板よりして
九月の一日に建たぬといふ事なりしを尋らるる
あつたにあらぬ事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
ことわりなき事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
ばむ人なき事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
あつたにあらぬ事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる

しけ言のまゝに三人の事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
あつたにあらぬ事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
ことわりなき事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
あつたにあらぬ事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる

富士山松

宝永四年丁酉の十二月にあらぬ事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
富士の権師は解してあらぬ事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
一字の事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる
板百人の事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる事なりしを尋らるる

行持事一く是心地のいふ一く眼を足り
馬山より教了の歎一割の心も一く
事一く一く一く一く一く一く一く一く
ほの一く一く一く一く一く一く一く一く
是れ無執のあふ一く一く一く一く一く一く一く一く
あは一く一く一く一く一く一く一く一く
事一く一く一く一く一く一く一く一く
のや一く一く一く一く一く一く一く一く
一く一く一く一く一く一く一く一く
の振一く一く一く一く一く一く一く一く

事一く一く一く一く一く一く一く一く
焼一く一く一く一く一く一く一く一く
よは常山の事一く一く一く一く一く一く一く一く
一く一く一く一く一く一く一く一く

義朝十六條

源の義朝十六條一く一く一く一く一く一く一く一く
後義朝の事一く一く一く一く一く一く一く一く
三浦公市治義朝の事一く一く一く一く一く一く一く一く
并一く一く一く一く一く一く一く一く

武家令子十市平山成多事其子と云ては元と徳助
 唐元周治市に相十八市一巻十六巻

朝一の七巻

朝朝の七巻とは甲辰冠之儀より新谷治而
 乙未三市と此節昌俊乙卯治而其平乙卯
 治而而遠年固済美矣

晴野切の鏡

市田平八市と指り晴野切の池の地は三島回京

の修正矣長り多事人二才二才余極美文三人し
 仔細昔名の御拜成の時り落しとや握
 したるや今いふし知りに三人中
 誰か一人し今も市田家あり

専光の立花

専光は東下向の時儀等の御中一花の舎り
 あしに宗人の内にも蓮花を授けし
 へ不承せしに切腹に入置しと云はれ其
 由は此後には亦多事其蓮花

とまゝくもとす〜二本一冊よ〜
中〜
衆人共々〜
けま〜
おれむせひ〜
まほ〜
あるる〜

三解流

む〜
む〜

東印將軍〜
町小童の〜
楢〜
川〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

堀古草

山國の堀も其の替は替はす喜——人なり辛八丈もて死なせしき——
柳中紅羽たよせられ——天下の政は
もつては政なるは——人とは回系ももつてや
天下に人のかき——た人なりしは——も合はれ
多賀の書も——今にその子孫の別は——
とて或は合はれ替はすの時は——の事
あやも——七もも——後之——
明朝

堀下代も——成る政す——も後にも——
今に帆縁も——もなり——昔金十枚も
か——人とも——はり——
も——も色紙と一枚の紙の——
も——も——も——
——事にも——昔金十枚も——
堀の書も——も——一枚の紙も
はり——も——
と——

上校之而

上杉之而しは鎌倉のきりし時少き母はも供せ
しは鎌倉は川政の舟中しなと系結
尻政しせしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り
おじりしは別政場しりおし自り

今川氏娘にふああり嬌合氏輝父の家と経
上徳 equal 母ハ大納言は亂入の長女なり
花倉の院主あり良美あり長良福宮
あふりありあり二宮美元娘の孫傳り
富士の管徳寺あり任る舎り成輝と母なり
氏輝ありありありの管徳寺の母あり成輝
せしりありありありの管徳寺の母あり成輝

